

Title	接辞性字音語基「カ(リヨク)」について
Sub Title	
Author	宋, 蘊明 (Sō, Unmei)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2019
Jtitle	日本語と日本語教育 No.47 (2019. 3) ,p.85- 85
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20190300-0085">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20190300-0085</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔大学院文学研究科修士論文〕

## 接辞性字音語基「力(リョク)」について

宋 蘊 明

本研究は能力をあらわす接辞性字音語基「力(リョク)」について、語構造と意味を中心に考察を進め、造語成分としての「力」の役割と性質について検討した。

考察を進めるにあたり、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) から用例を収集し、基礎資料を作成した。「力」を含む複合語のうち、一次結合による語はデータの約3分の2を占めている。それに対し、複次結合による語は約3分の1であった。

この中から、一次結合による語を分析対象とし、前接語基を語種別に分けて、それぞれの意味分野を考察した。一次結合の場合、「力」の前接語基は、異なり語数で見ると、語種別では、漢語 744 (87.74%)、外来語 74 (8.84%)、和語 26 (3.07%)、混種語 3 (0.35%) という順に用例数が多い。用例数の極めて少ない混種語を除いて意味から観察すると、これらの語基は『分類語彙表 増補改訂版』の意味分野で「人間活動—精神および行為」と「抽象的關係」に属するものが多い。これらをさらに具体例に分析すると、「力」は「語基の行為や属性における能力をあらわす」という本来「力」が持っている典型的な用法がある。また、「女子力」「父親力」「人間力」「教師力」などのように、「主体に当る語基に向かってあるべき姿として求められる能力をあらわす」用法がある。また、「鈍感力」「老人力」のように、「本来はマイナスの意味を持つ語基の評価性を変え、語全体にプラスの意味を与える」という発展的な用法があることを明らかにした。

また、一次結合の前接語基の品詞性を考察した。品詞性の判定は野村雅昭(1974)「造語法」の分類に従ったが、「力」の前接語基の品詞性は、サ変動詞の語幹にあたる(C類=スルを伴って派生する)が最も多いが、近年、「老人力」「女子力」「人間力」などの新造語が増え、名詞にあたる(A類=ガを伴って自立する)に属する語基も多いことがわかった。

結合語に見られる様々な結合パターンの分析について、具体例を取り上げて分析した結果、「力」は前接語基と結合する許容度が高く、造語力が強いこともわかった。

以上のような考察により、能力をあらわす接辞性字音語基「力(リョク)」の性格を明らかにした。